

【特集】 野江水神社

のえすいじんじゃ

大阪市内で数少ない

“水の神さま”を主祭神として祀る野江水神社。

氏子地域を守る氏神さまとして

古くから親しまれています。

名誉宮司の川端俊文かわばたとしふみさんに神社について

お話を伺いました。



野江水神社の歴史

祭神は水波女大神

大阪市都市景観資源に登録されている野江水神社。境内に入ると、まちの喧騒から離れて穏やかな空気に包まれるかのような心地よさを感じます。この神社の祭神は水波女大神。日本神話にも登場する水の女神です。そのため、地域の人からは水神社、水神さま、水神宮、地名から野江神社など親しみを込めて呼ばれています。「昔、この地域は土地が低く、大雨が降ると淀川が氾濫し、洪水の被害が頻繁にありました。天文2(1533)年、戦国武将である三好政長が、この地に榎並城を築く際、水害から城を守るため水火除難の守護神として、小祠を建立したのが現在の社殿の位置といわれています」と、川端さんに教えていただきました。また、豊臣秀吉も天正11(1583)年、大坂城を築く際、社殿を修築し、水火除難・国家泰平・武運長久の祈願をしていたといわれています。



度重なる洪水に遭いながらも“難を逃れる”

淀川流域では、昔から大きな被害をもたらす洪水が頻繁に起こり、地域の人々はその水害に悩まされてきました。江戸時代後期の享和2(1802)年に発生した大洪水のようすを大坂の商人が記録した貴重な資料『榎並八箇洪水記』(大阪府立中之島図書館所蔵)があります。

当時のようすが絵図で克明に描かれており、村全体が水没する中、野江水神社の鳥居や社殿の屋根、松の木だけが水面に浮かんでいます。「この地域一帯の記録に残るほどの大きな洪水は30回ほどあり、この大洪水では田畑や家の軒先ぐらまで水に浸かり、復旧まで1か月から半年ぐらいかかったようです」と、絵図を見ながら川端さんが語ります。

そして水が引くまでの間、被災者は当時、村単位で被災者を受け入れる避難先として機能していた道頓堀の芝居茶屋に避難したそうです。復興には淀川の下流の堤防を崩し、氾濫した水を川に戻す排水方法を採用。水が引いた田畑では、フナやナマズ、ウナギなどがよく獲れたため、大根より安くなったそうです。

その後、明治18(1885)年の未曾有の大洪水が、地域一帯に甚大な被害をもたらした最後の大洪水となりました。この時に社殿が倒壊し、明治21(1888)年に再建されたのが、現在の本殿・拝殿です。

また、昭和20(1945)年の大阪大空襲では、隣接する内代町が被害を受けた一方で、この地域一帯は被害をまぬがれました。不思議と難を逃れることから地域を守る神社として、地元の人々から大切にされています。



「榎並八箇洪水記」 長谷川宇兵衛 著

地域の人々の暮らしを見守る存在となるように

正面参道の先にはJR・京阪の駅があり、裏参道の先にはバス停や地下鉄の駅があるため、早朝から境内を通勤通学で行きかう人がいます。通り過ぎる人もいれば、参拝してから行く人、鳥居の前で一礼する人などさまざま。地域の人々の暮らしに根付いている神社だからこそその光景といえます。「地域の皆さんの暮らしを見守り、地域の絆を深めていく交流の場でありたいと思います」と、にこやかに話す川端さん。境内には初夏を彩る紫陽花が咲き誇り、和やかな気持ちにさせてくれます。

散歩がてら
お参りください！

名誉宮司 川端俊文さん



ここも注目ポイント！

野江水流地蔵尊

(大阪市都市景観資源登録)
明治18(1885)年の大洪水のときにこの地に流れついたといわれている地蔵尊。どこから流れてきたのかは不明。石鳥居の横に祠が立ち、地元町会に守られています。



御神木の大楠

樹齢約450年の大楠。境内を覆いつくすほどの枝ぶりのため、定期的に剪定されています。

野江稲荷社

野江水神社の境内にあり、祭神は宇迦之御魂大神(稲荷大神)。衣・食・住・商売繁盛を祈りに参拝者が訪れます。



石燈籠

正面参道に並ぶ石燈籠は、石鳥居から拝殿まで古い順に寛文元(1661)年、安政5(1859)年、明治36(1903)年に立てられています。台座の形で時代の違いが分かるそうです。また、石燈籠の火袋は、太陽(陽)と月(陰)の形をしています。



野江の地名の由来

野原の「野」、岸を意味する「江」から名付けられたといわれています。また伝承によると、古来この地で菜の花畑があり、菜種油を作っていました。奈良時代には孝謙天皇に油を献上したことから、「油江村」の名を賜り、いつしか「油江」が転じて「野江」になったとの説もあります。

榎並猿楽発祥の地・榎並城跡伝承地の碑

榎並猿楽は鎌倉時代末期、丹波猿楽の新座として榎並の地に座を構え、一時は本座をしのぐ勢いでした。しかし、応永31(1424)年には楽頭職を大和猿楽の観世に譲り渡し、さらに応仁の乱の影響もあって次第に衰退。天文年間には廃滅していたと思われます。三好政長が築いた榎並城は、小さいながら東成郡随一の要衝であったといわれています。天文17(1548)年、細川晴元(はそがわはるもと)の打倒をめざす三好長慶は、晴元方に属していた三好政長と、その子政勝を攻撃し、翌年政長は戦死、晴元の軍は敗れ榎並城も陥落しました。



野江水神社

拝観時間

境内自由

社務所受付

電話でご確認ください

ところ

野江4-1-39

問合せ

☎06-6931-6976

FAX06-6931-5534